

旭真空株式会社

取締役会長 大久保 一氏

代表取締役社長 大久保 功氏



茨城県鉾田市に本社を構える旭真空株式会社は、昭和47年に創業し、真空蒸着などの表面処理加工を得意としています。

自動車照明分野で国内トップシェアを誇る小系製作所をはじめ、バンダイナムコのグループ企業などと直接取引し、「レクサス」や「ガンプラ」の製造に関わっています。

また、銅成膜技術の開発や特許申請など、3代目の新社長としてニューノーマル時代への対応策に果敢に挑戦する大久保功氏にお話を伺いました。

インタビュー日：2021年6月17日
〔聞き手：筑波総研(株) 代表取締役社長 野口稔夫〕
〔文・写真：筑波総研(株) 主任研究員 富山かなえ〕
取引支店：(株)筑波銀行 鉾田支店

企業概要

本社：茨城県鉾田市紅葉693
創業：昭和47年4月
設立：昭和49年1月
事業内容：表面処理加工
(真空蒸着・カラー塗装・ハードコーティングによる加飾)
主要取引先：株式会社小系製作所、株式会社シーズ(バンダイナムコグループ会社)、キヤノン電子株式会社、株式会社青木製作所、他30社

創業の歴史と貴社の事業概要、事業拡大プロセスをお聞かせください。

■ 酪農から新規一転、真空蒸着に活路を見出す

当社は、真空蒸着やカラー塗装、ハードコーティングによる加飾加工などの表面処理加工事業を営んでいます。当社の歴史は、昭和47年4月、私の祖父で現会長大久保一の父、茂夫が真空蒸着事業を開始したことに始まります。

当事業を始める前、祖父は酪農で生計を立てていました。しかし、体調を崩してしまい、友人に勧められた真空蒸着に活路を見出します。

未経験にもかかわらず、祖父は思い切って設備を導入し、真空蒸着の経験者を3名ヘッドハンティングして、大久保工業所として新たな道を歩み始め、2年後には旭真空株式会社に組織変更しました。

■ 「キラキラ表面」を作り出す真空蒸着

真空蒸着とは、真空状態にした装置の中で、金属などを加熱、気化させ、素材の表面にキラキラした金属膜を均一に密着させる技術です。

樹脂成型品のほかアルミ鋳造品などの素材の表面処理が可能です。蒸着可能な金属は、アルミニウムをはじめ、クロムやスズなどがあります。

真空蒸着を行うと、素材の表面は鏡のように輝きを放ちます。これまで当社は、時計部品や弱電機器、照明器具、自動車用ライトの反射鏡、玩具、家電など、様々な部品に対応して参りました。

また現在、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、接触感染を抑制する効果を持つ「銅成膜技術」の開発にも取り組んでおり、特許を出願中です。



パトカーのランプに使用される部品の製造現場



同社の歴史を語る大久保社長

■ 創業から49年、3代目の社長に就任

祖父が創業する前、父は農協の営農指導員として勤務していましたが、家業を手伝うため、21歳で農協を辞め、祖父の右腕として、長年、販路拡大や技術力の向上に努めました。

旗揚げ時から顧客が決まっていたわけではないため、新規の取引先獲得には大変苦労したと聞いています。それでも懸命に事業を軌道に乗せ、40歳の時、父が代表取締役役に就任しました。

私は、平成15年に帝京大学理工学部を卒業後、当社に入社しました。幼い頃から父の姿を見て育ち、当社に入社してからは、製品開発ならびに量産製品の品質最高責任者として社内管理や大手取引先との折衝、販路拡大や新技術の開発に邁進し、令和3年6月、代表取締役に就任しました。

■ 国内トップクラスのメーカーと直接取引

当社の主要取引先は、株式会社小糸製作所（本社：東京都港区）をはじめ、バンダイナムコのグループ企業である株式会社シーズ（本社：栃木県壬生町）、キャノン電子株式会社（本社：埼玉県秩父市）などで、各社とも直接口座を開いています。

特に、小糸製作所様は、自動車用照明分野で国内トップを誇るメーカーで、自動車用LEDヘッドランプでは世界市場の約30%を席卷するグローバル企業です。

当社が日本のトップメーカーと直接取引していることに、多くの方々が驚かれます。最初は商社を通じたご縁でしたが、高い技術力を認めていただき、現在も厚い信頼関係のもと取引が継続しています。

大手企業との直接取引にける想いや受注している製品などについてお聞かせください。

■ 「世間知らず」な新参者の挑戦

小糸製作所様との直接取引は、開始から15年が経ちますが、口座を開くまでの道のりは、簡単なものではありませんでした。

同社工場のお膝元である静岡市には、同社と取引している企業が多数立地し、新参者が入り込むことは大変困難でした。また、社内からも「そんな大企業と直接取引できるわけがないだろう」と理解は示されませんでした。

しかし、「世間知らず」だった当時の私は、商社を通してお取引させていただいた頃から、小糸製作所の担当の方にお会いする度に、「どうしたら御社と直接取引できますか」と、何度も問いかけ続けました。

■ 「恵まれた人間関係」が事業拡大の鍵

それから3か月、半年と経つ中で、担当の方から「本気なのか？」と聞かれました。そして、直接取引を望むなら、まずは商社や関係者と話を付けてくるよう提案され、その後、私の熱意を汲み取っていただき、口座を開くことになりました。

この方には、大変鍛えていただきました。今思えば、新参者の当社と直接取引を始めることで、小糸製作所様に長年守られてきた地元企業に対して「一石を投じる」という考えがあったのかもしれない。

他の主要取引先のお客様との出会いは、先方から直接頂いたお電話でした。「塗装のことなら、旭真空の大久保常務（現社長）に相談してみると良い」と、紹介を受けてご連絡くださったそうです。

私は日頃から、取引先の部署はもちろん、他部署の方から清掃事務員の方まで、とにかくすれ違う方全員へ120%の声を出した挨拶を心掛けており、その姿勢は、社員たちにも徹底させています。

今では取引先以外の方からも、お声をかけていただけるような信頼関係が構築できていると実感しています。この「恵まれた人間関係」こそ、当社の事業拡大の鍵になっていると感じています。



機動戦士ガンダムシリーズのプラモデル「ガンプラ」の製造にも携わっている

■ 「レクサス」や「ガンプラ」の製造に携わる

小糸製作所様からの発注内容は、当初国外で販売されていたトヨタ自動車が開発する高級セダン「レクサスLS」のヘッドライトの部品製造でした。それから現在まで、歴代レクサスのヘッドライトを担当させていただいています。

また、バンダイナムコのグループ企業であるシーズ様とは、機動戦士ガンダムシリーズのプラモデル「ガンプラ」（「RX-78-2」など）の部品製造で関わらせていただいています。

ガンプラはとても精巧に作られており、高い技術が求められる仕事です。ガンプラは、世界規模で見ても大変需要がある商品なのです。

私たちにとって多様な業界とつながることは、新しい目線や技術力を養える良い機会であり、社内一丸となって、取り組んで参ります。



女性社員が丁寧に検品した後、発送作業を行う

品質管理方針や社員教育、アフターコロナに対する展望などをお聞かせください。

「ノンクレーム」1,400日超えの品質管理術

平成31年、お得意先へ納入した製品の不良が急増してしまっていたことがあります。

それを受け、当社は品質管理方針として、「止める」「呼ぶ」「待つ」の徹底、標準作業の遵守、外観検査時間の確保の徹底、定期的な教育・訓練の実施、管理者による初物・終物チェックの徹底を実践しました。

その結果、お客様からの製造ラインを止めるようなクレームは1,407日間ゼロ、改善要求などの苦情は849日間ゼロを継続しています（取材時）。



品質管理に関する方針を語る大久保会長（左）

社員と同じ目線で物事を見つめる

トラブルが起きる原因は、発注ミスや誤認識などの「ヒューマンエラー」がほとんどです。そのため社員の負担や心配事を少しでも軽減したいと考えており、今後はIoTなどを導入し、データの可視化ができる環境を整備したいと考えています。

また、私は午前と午後、必ず全工程を見て回り、社員と会話を交わすようにしています。同じ目線に立ち、現場が抱える課題を共有することは、仕事のやりやすさにつながると信じているからです。

今後も、当社がこれまで培ってきた“匠の技術力”と“確かな信頼”を維持するため、工場の動線改善や新工場の検討、管理システムの導入などのハード面、社員の意識と技術力向上などのソフト面、それぞれの強化を図って参ります。



社員の皆さん（写真提供：旭真空株式会社）

先代への感謝と次代に通用する技術開発

昨年、新型コロナウイルス感染症の拡大により受注が減少した際、当時の社長であった父から、休業支援金の申請を提案されました。

しかし、「何とか仕事を回復させるから、対症療法的な手段はとらず、午後3時以降は、社員教育と改善活動に時間を費やしたい」と相談をしました。

それを聞いて父は驚くと同時に、私の考えに賛同し、私は新たな戦略を練り始めました。そして、ある日、「当社は蒸着屋。それなら、銅の蒸着も可能なのではないか」と閃いたのです。

銅には抗菌作用があり、ウイルスを99.9%不活化します。これは、ニューノーマル時代に活躍する新技術であると自負しています。

現在申請中の特許を通過させ、会長と叔父の専務に「一花咲かせてあげたい」と考えています。今後も視座を高く持ち続け、約50年続く企業の3代目として、邁進して参ります。



大久保会長（中央左）、大久保社長（中央右）、筑波銀行銚田支店渡邊支店長（右）、聞き手・野口稔夫

この度は、長時間にわたり貴重なお話をお聞かせいただき、誠にありがとうございました。御社の今後益々のご発展をご祈念いたします。